RasterLink 8

Ver.1.1.0 ～

OptiScout 連係ガイド

MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.

D204036-10

目次

はじめに 3

OptiScout 4

1.必要なソフトウェア 5

2.概要 6

3.OptiScoutSettingToolのインストール 7

4.プリント＆カットデータを使用して連係する 8

5-1 装置側で値を設定する 19

5-2 装置側で値を設定する 20

5-3 装置側の注意事項：CFX series での設定 21

付録１　特色名 22

はじめに

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写したりすることは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更などにより、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行したりする以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）などの損失、メディアを使用して作成された物によって生じた、間接的な損失などの責任負担もしないものとします。

RasterLinkは株式会社ミマキエンジニアリングの日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows 10、Windows 11は、Microsoft Corporationの米国ならびにその他の国での登録商標、または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

OptiScout連係ガイド

OptiScout

・Euro-Systems社のカット機制御ソフトです。
RasterLinkは、プリント＆カットデータに連係用QRコードを付加して印刷できます。また、カットデータをOptiScoutに出力することで、OptiScoutを使用しながら印刷済みの部材を効率的にカットできます。

カット対象機　　：CFX-2513, CFX-2531, CFX-2550
(カメラユニット搭載機)

OptiScout連係

1.必要なソフトウェア

OptiScoutと連係するためには、以下のソフトウェアが必要です。
また、Euro-Systems社のソフトウェアおよびRasterLink8を事前に
セットアップする必要があります。

1)RasterLink8 Ver1.0.0以上
2)Mimaki ドライバー Ver5.13.0以上
3)OptiScoutSettingTool Ver1.00以上
4)CFXシリーズFW Ver3.00以上
5)OptiScout 最新バージョン
6)Media Server 最新バージョン
7)OBSCURAS カメラSDK 最新バージョン

セットアップ方法

- Euro-Systems社のソフトウェアについては、Euro-Systems社のHP／マニュアルをご確認ください。
- 弊社のソフトウェアについては、RasterLink8のインストールガイド
  およびリファレンスガイドをご確認ください。
- OBSCURAS カメラSDKについてはCFXシリーズのOBSCURAS-機能ガイドをご確認ください。

本ガイドは、OptiScoutSettingToolのインストールについて案内します。

OptiScout連係

2.概要

本書ではソフトウェアのセットアップとCFXシリーズの設定は
完了している前提で、プリント＆カットデータを使って、
OptiScoutと連係する手順について説明します。

プリント＆カットデータのカット線には、Euro-Systems社が規定
する特色名を付加する必要があります。
特色名の詳細は、「付録1 特色名」をご確認ください。

OptiScoutにカットデータを出力後の操作手順については、
OptiScoutのマニュアルをご確認ください。

OptiScout連係

3. OptiScoutSettingToolのインストール

手順 1 → 2 → 3

RasterLink8の製品ページからOptiScoutSettingToolをダウンロードし、
インストールします。

①OptiScoutSettingToolをダウンロード

②自己解凍形式のファイルを
ダブルクリック

③画面の指示に従ってインストール

OptiScout連係

４．プリント＆カットデータを使用して連係する

ワークフロー

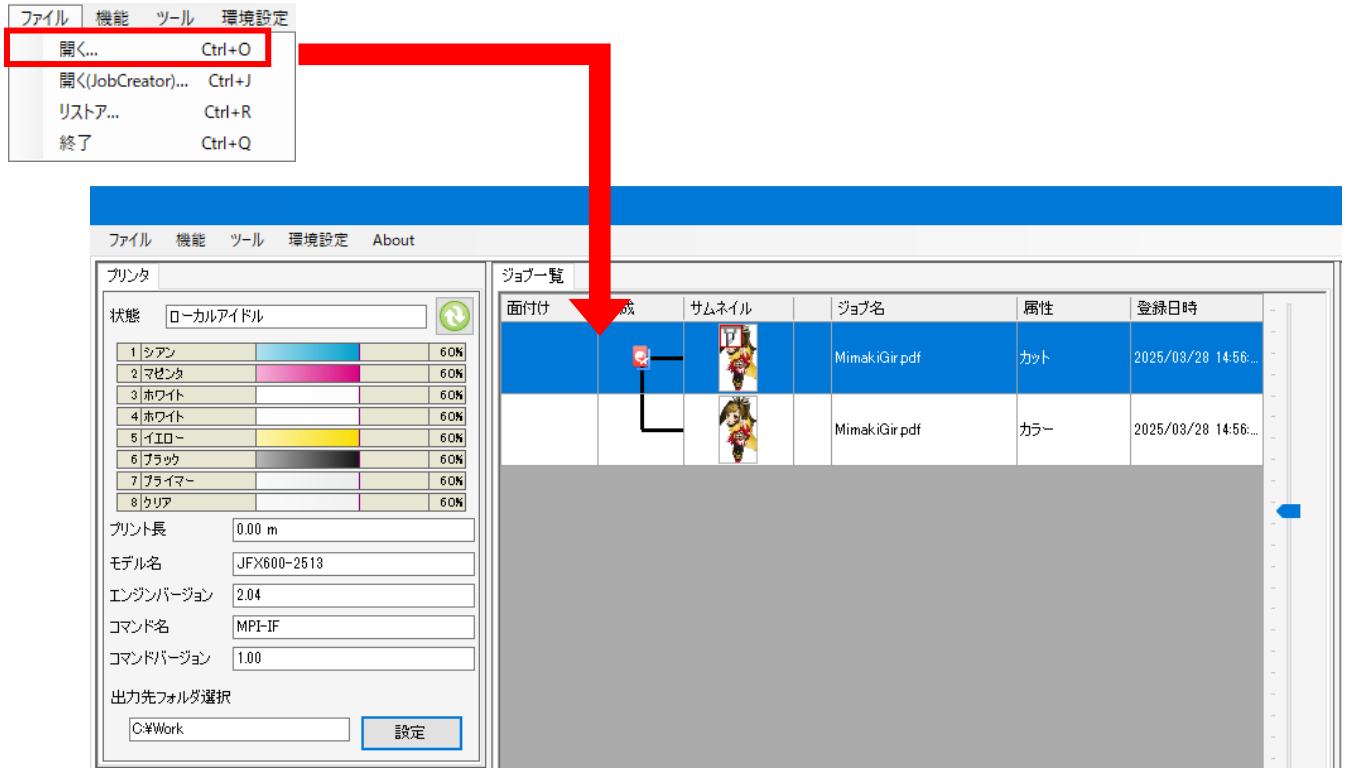
1	[RasterLink]	プリント＆カット用のジョブを開く
2	[RasterLink]	印刷条件を設定する
3	[RasterLink]	OptiScout設定画面を表示する
4	[RasterLink]	Material Serverの情報を設定する
5	[RasterLink]	トンボ、QRコードを設定する
6	[RasterLink]	Materialを設定する
7	[RasterLink]	プリセットの名称を設定する
8	[RasterLink]	コピー数を指定する
9	[RasterLink]	プリント＆カットを実行する
10	[OptiScout]	カットデバイスを制御してカットする

OptiScout連係

４．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-1 プリント＆カット用のジョブを開く

1)プリント&カット画像を選択して開く



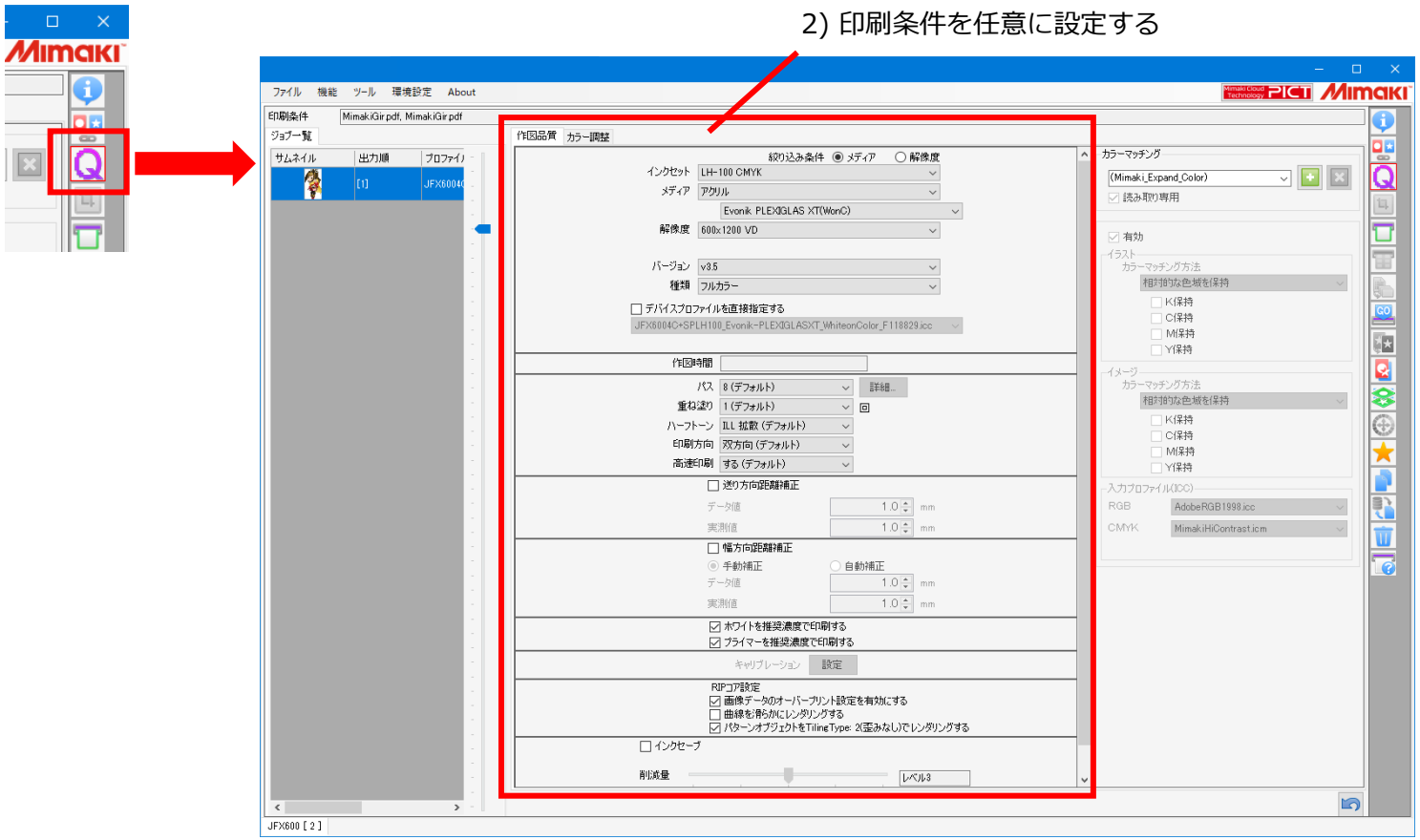
OptiScout連係

4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-2 印刷条件を設定する

1)ジョブを選択し、印刷条件アイコンをクリックする

2) 印刷条件を任意に設定する



OptiScout連係

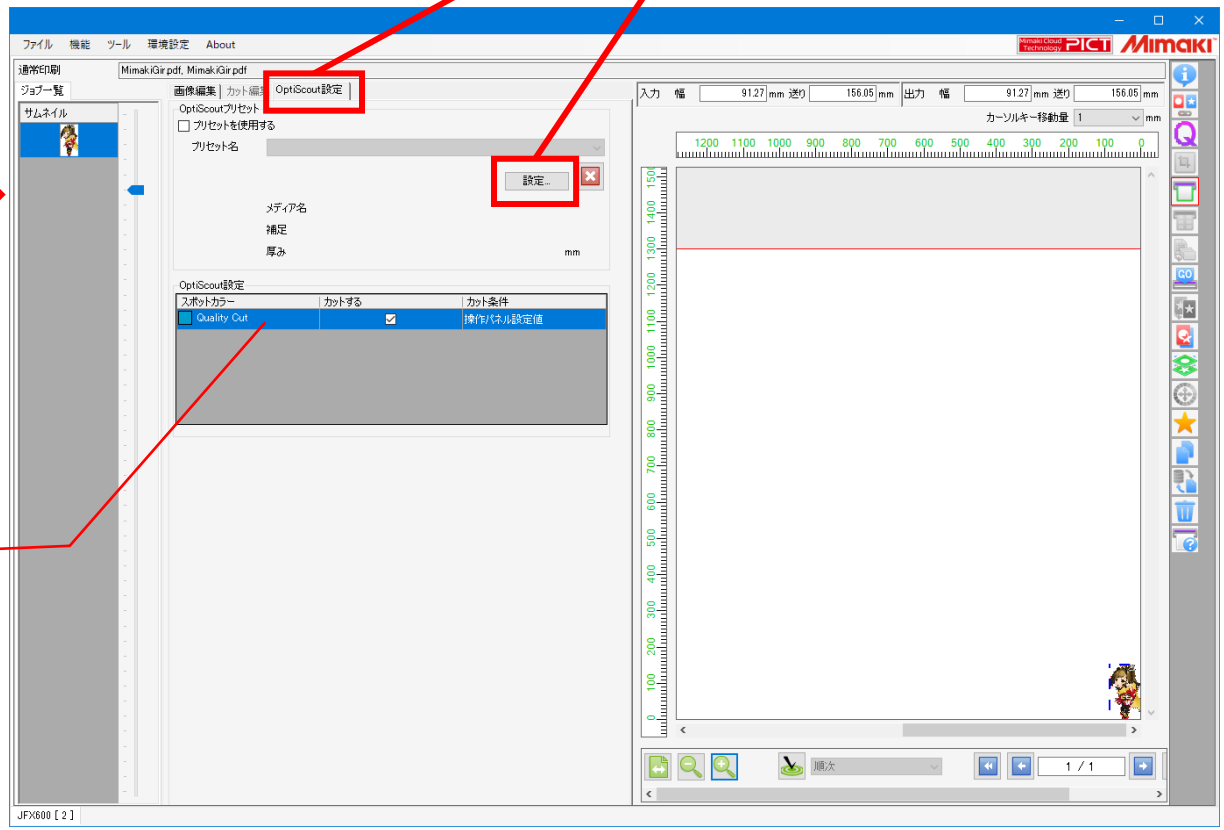
4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-3 OptiScout設定画面を表示する

1)ジョブを選択し、通常印刷アイコンをクリックする

2)[OptiScout設定]タブをクリックする

3)[設定]をクリックする

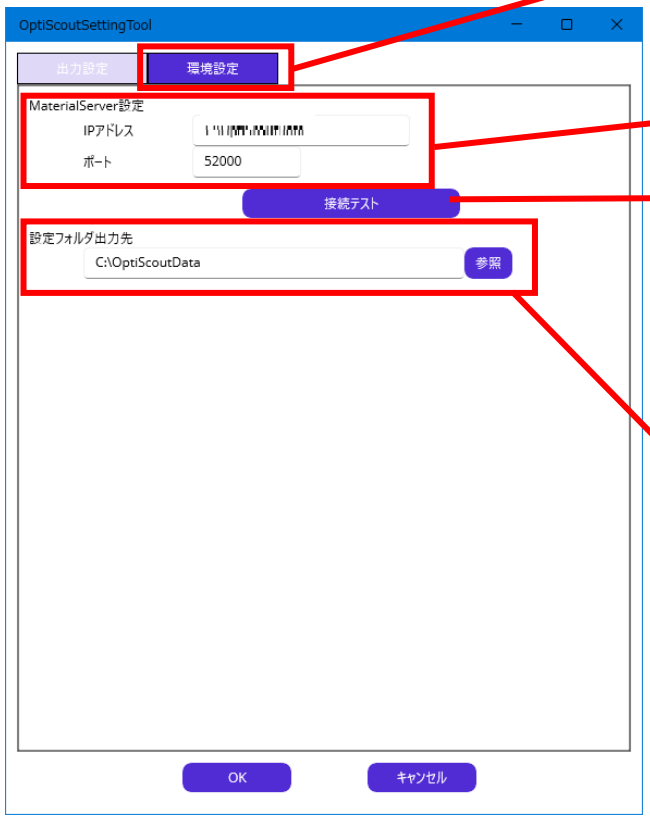


ジョブに設定されたカット用特色名が表示されます。

OptiScout連係

４．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-4 Material Serverの情報を設定する



1)[環境設定]タブをクリックする

2)[MaterilaServer設定]の[IPアドレス]と[ポート番号]を入力する

3)[接続テスト]をクリックし、設定に間違いがないかを確認する

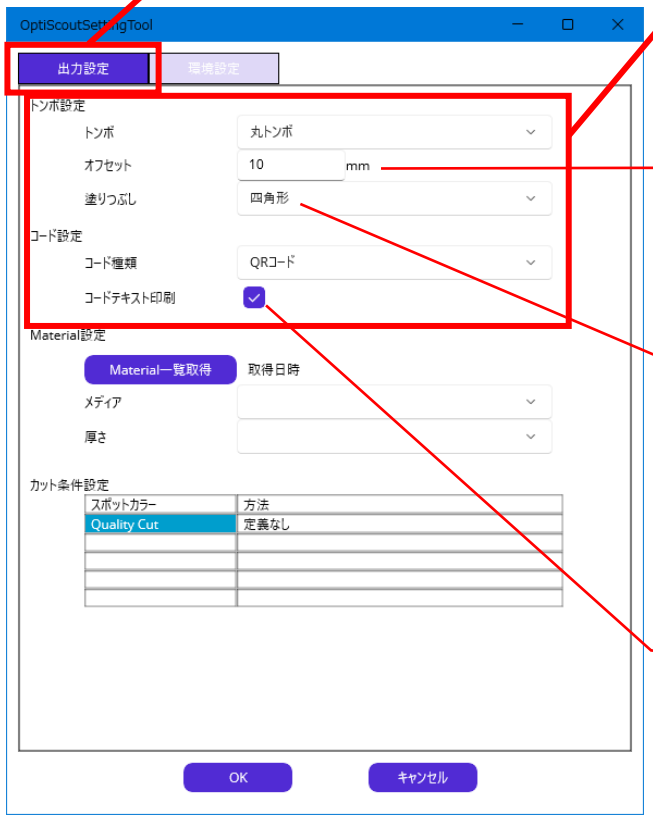
4)OXFファイルの出力先フォルダーを指定する

OptiScout連係

4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-5 トンボ、QRコードを設定する

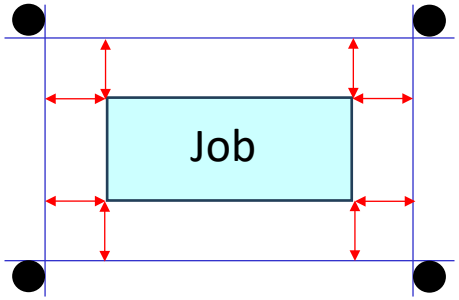
1)[出力設定]タブをクリックする



2)トンボとQRコードの条件を設定する

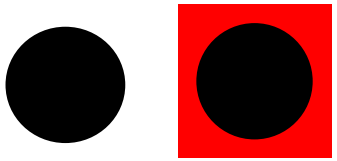
[オフセット]

画像とトンボ間の余白



[塗りつぶし]

なし　　あり（四角形）



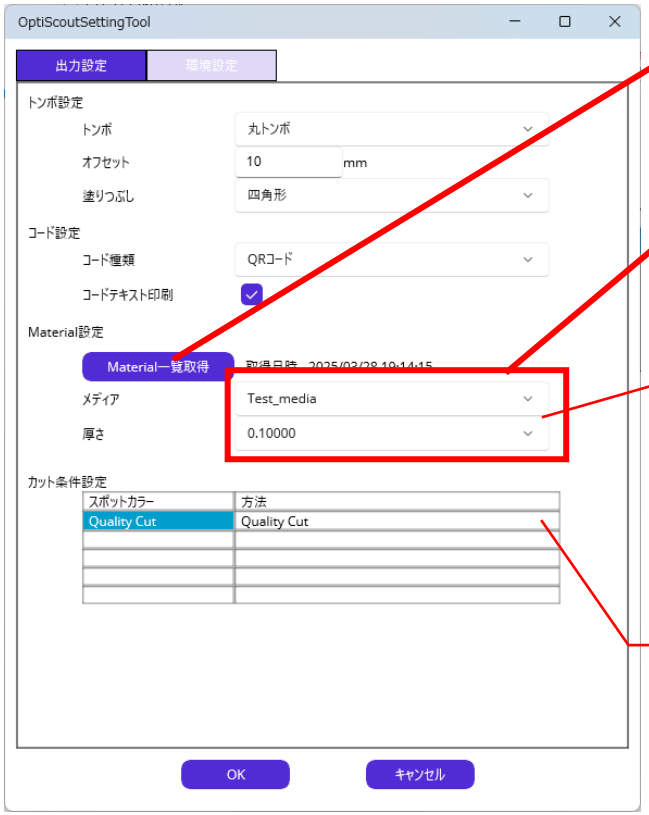
QRコードの横に文字情報を印刷します。

ABCDEF123B

OptiScout連係

4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-6 Materialを設定する



1)[Material一覧取得]をクリックする

2)メディアの種類、厚さを選択する

Material Serverで事前に登録していたメディアと厚さの情報が表示されます。必要な情報が表示されない時は、Material Serverの登録情報をご確認ください。

メディアと厚さを選択すると、カット方法が自動で設定されます。スポットカラー名に対応するカット方法が存在しない時は、“定義なし”と表示されます。

OptiScout連係

4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-7 プリセットの名称を設定する

1)[OK]をクリックする

2)設定した条件に名前を付けて保存する

3)[OK]をクリックする

条件に名前を付けて保存することで、次回以降は[OptiScout設定]タブ上でプリセット名を呼び出して再利用できます。

OptiScout連係

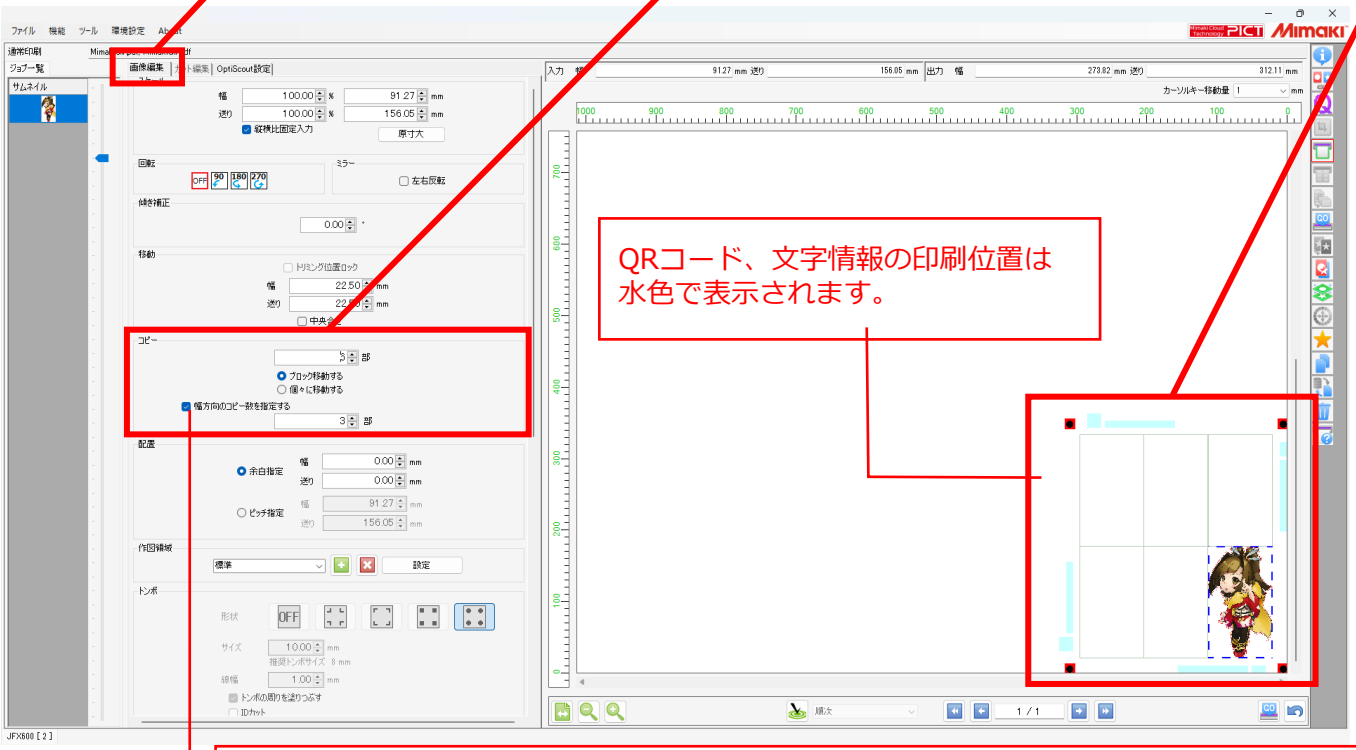
4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-8 コピー数を指定する

1)[画像編集]タブをクリックする

2)コピー部数を設定する

3)印刷イメージを確認する



本設定のチェックをオンにすると、指定した個数で画像を折り返してレイアウトできます。

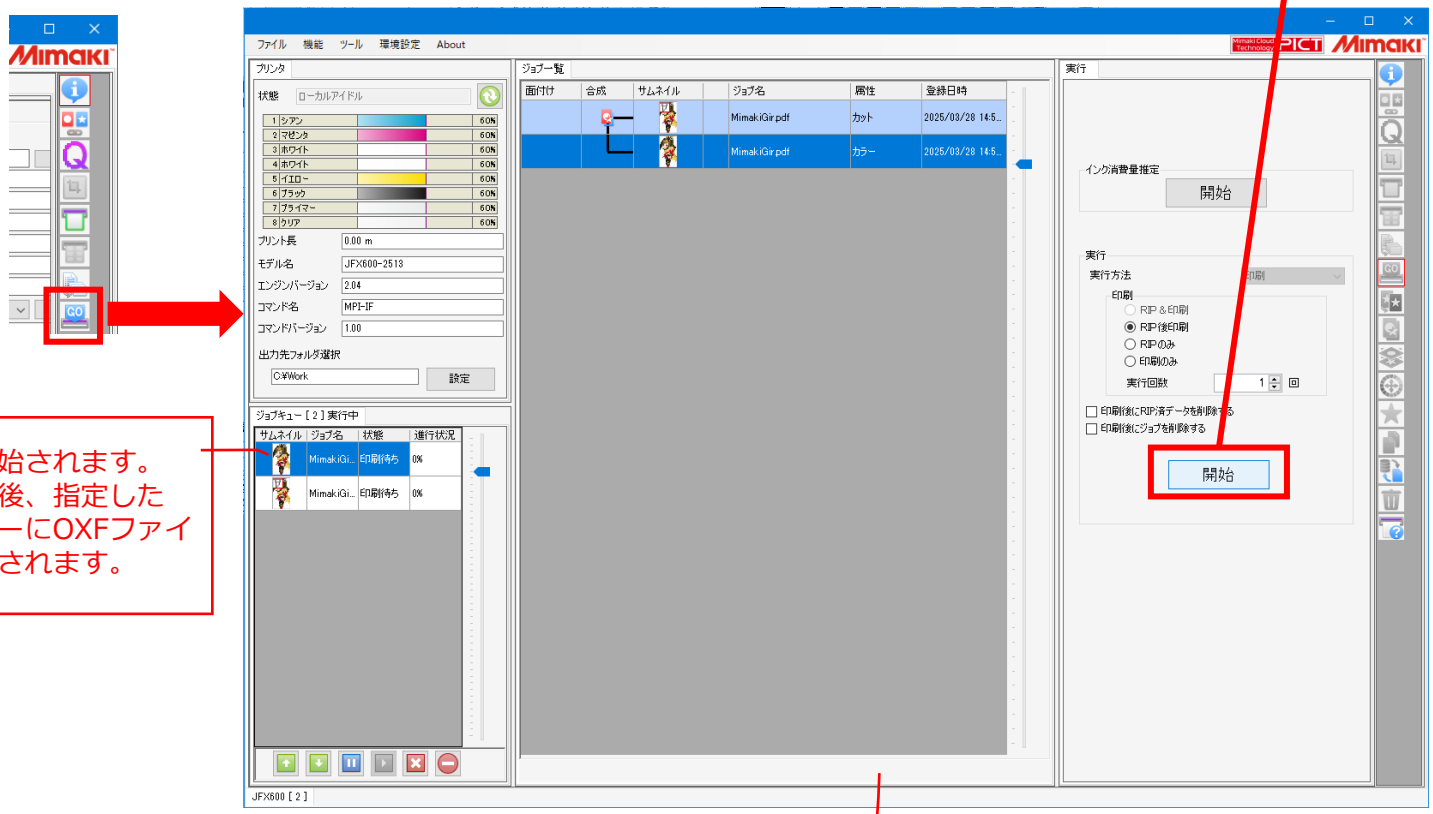
OptiScout連係

4．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-9 プリント＆カットを実行する

1)ジョブを選択し、実行アイコンをクリックする

2)[開始]をクリックする



印刷が開始されます。
印刷完了後、指定したフォルダーにOXFファイルが出力されます。

RasterLink8の操作はこれで完了です。カット作業はOptiScoutで実施します。

OptiScout連係

４．プリント＆カットデータを使用して連係する

4-10 カットデバイスを制御してカットする

RasterLinkから出力されたカットデータは、QRコードを読み込むと自動的にOptiScoutの画面に表示されます。

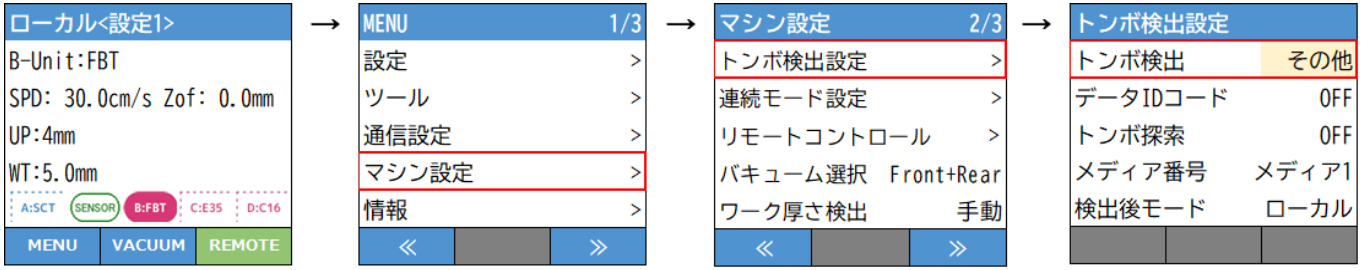
これ以降のカット操作については、OptiScoutのマニュアルをご確認ください。

OptiScout連係

5-1 装置側で値を設定する：CFX series での設定

1．装置側の操作パネルにて、トンボ設定を「その他」に設定してください。

MENU → マシン設定 → トンボ検出設定 → トンボ検出＝その他



※ この設定により、OptiScoutでは使用しない以下のメニューが起動できなくなります。

- JOG機能選択＞トンボ原点検出
- JOG機能選択＞トンボオフセット
- JOG機能選択＞トンボ検出カメラ調整

また、OptiScoutにおいては無効な設定項目や設定値が変更できなくなります。

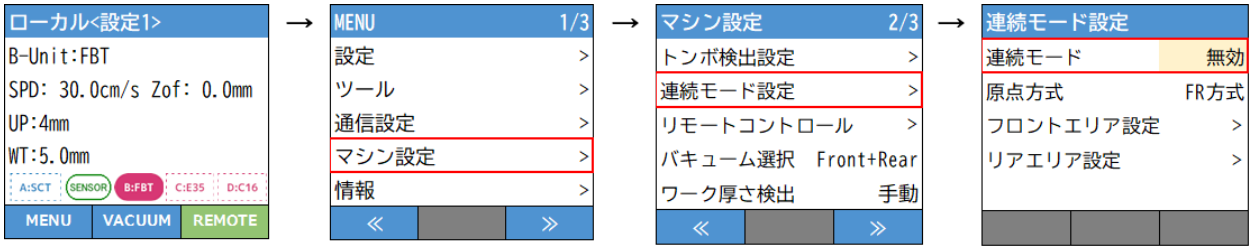
- マシン設定＞トンボ検出設定＞データIDコード
- マシン設定＞トンボ検出設定＞トンボ探索
- マシン設定＞トンボ検出設定＞メディア番号
- マシン設定＞トンボ検出設定＞検出後モード
- マシン設定＞連続モード設定＞連続モード＝連続
- マシン設定＞連続モード設定＞連続モード＝トグル
- ツール設定＞Cxx（罫引きローラー）＞ダブルローラー

OptiScout連係

5-2 装置側で値を設定する：CFX series での設定

２．装置側の操作パネルで、連続モードを「無効」に設定してください。

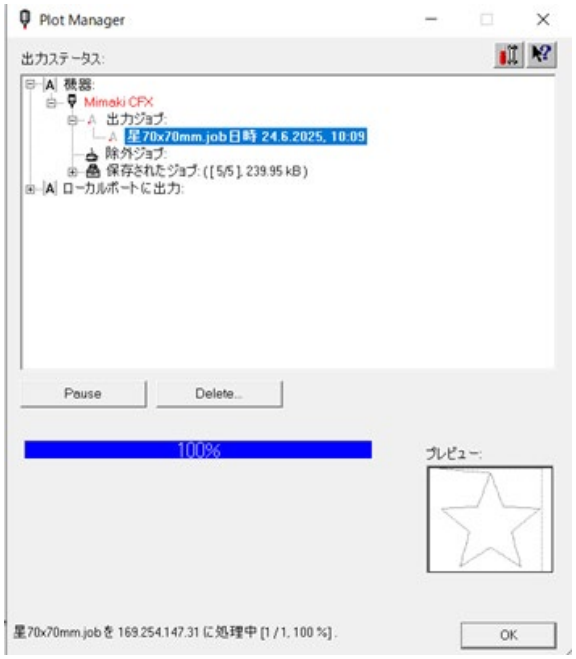
MENU → マシン設定 → 連続モード設定 → 連続モード



装置側の設定は以上です。

注意事項）

・作図を中断するため、装置側でデータクリアを実行した場合、
OptiScout の Plot Manager にジョブが残っているので、
データクリアしたジョブを手動で削除してください。
削除しないと次のデータをカットできません。



OptiScout連係

5-3 装置側の注意事項：CFX series での設定

3 -1．作図原点について

OptiScoutを使用する場合、特に支障が無ければ、起動時の作図原点（最大有効カットエリアの右下）のまま、ご使用ください。

作図原点を変更したい場合は、QRコードと右下トンボよりも左上側に設定しないでください。

左上側の位置に設定した場合、右下トンボが正常に読み取れない場合があります。

3-2．作図終了後

OptiScoutアプリ内のSTOPを押した場合、CFX上でデータクリアを実行してください。

次の作図開始時に、CFXの接続が出来なくなった場合は、OptiScoutを再起動する必要があります。

OptiScout連係

付録１　特色名

No.	特色名	用途
1	Draw	ペン
2	Score	押しつぶして切断
3	Crease	折り目
4	Kiss-cut	キスカット
5	Perforation	ミシン目
6	Punch	穴あけ
7	V-Cut	V-Cut45など角度を末尾に着けることも可能
8	Engrave	彫刻
9	Bevel-cut	斜め切り
10	Thru-cut	切断
11	Drill	ドリル
12	Route	経路
13	Quality Cut	品質優先
14	Fast Cut	速度優先
15	Weed	カストリ線

D204036-10-05102026

© 2026 MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.

HK